

## 東方学術賞の創設と第1回（1979年）授賞式

主にインド思想・文化およびアジアにおけるその発展段階を研究している学者、研究者を顕彰することを目的として、東方研究会では〈東方学術賞〉を設けることにし、インド大使館と共同主催することになりました。よって選考委員（土井久弥、勝又俊教、中村元、奥田慈應、玉城康四郎、田中於菟弥の六氏）のあいだで慎重に討議されました結果、今回は水野弘元博士の業績を特別顕彰することに決定しました。そうして次のような挨拶状を発送しました。

拝啓 いまだに残暑が去りませぬが 御清祥のこととおよろこび申し上げます  
さて 財団法人東方研究会におきましては 斯学の発展をはかるために真に学問的意義があり世の人々を益する恒久的な事業を遂行したいとかねがね念願致し 種検討致して参りましたが このたび その一つの歩みとしてインド大使館と共同主催にて  
東方学術特別顕彰 および  
東方学術賞  
を設けて学者のすぐれた業績を世にひろく顕彰することに致しました よって先般選考委員会において慎重に審議致しましたが その結果 第一回の特別顕彰として  
水野弘元博士 （駒沢大学副学長）  
の学績をたたえることに決定しましたので 左記のごとく顕彰式を行ないます

一、場 所 インド大使館  
東京都千代田区南九段二丁目二一十一 （千鳥ヶ淵）  
一、日 時 昭和五十四年九月五日（水曜日）午後三時

つきましては御多用中恐縮ながら御来駕の栄にあずかりたくここに御案内申し上げます  
敬 具  
昭和五十四年八月  
財団法人東方研究会  
理事長 中 村 元  
各 位 』

右の案内状のごとく、1979（昭和54）年9月5日午後3時から東京・九段にあるインド大使館で顕彰式が行われ、Avatar Singh駐日インド大使臨席のもとにはじまりました。次の次第については「中外日報」（9月29日号）は次のように伝えてあります。

『……………選考委員会において「パーリ語、インド仏教史、禅の研究では、わが国のみならず世界的に認められている」（中村氏）として水野副学長を満場一致で選んだ。

顕彰式では、アビタール・シン駐日インド大使が「東方学術賞」（英文）を水野氏に授与、「生涯の大半を仏教の研究に献げられた博士の功績は、本日ここに並べられているご著書の数々を拝見してもわかるが博士はインドでも偉大な学者として尊敬されており、ナーランダ仏教研究所は最近、博士に名誉博士号を贈りました。インド及びアジアの研究者の大部分を網羅している東方研究会が厳選して博士を選んだということは大変権威あることで、心からお祝い申し上げます」と挨拶した。シン大使はさらに十二冊のインド研究の本を贈った。続いて中村元理事長からは「東方学術特別顕彰」（日本文）と副賞二十万円が贈られた。

また祝辞に立った平川彰早大教授は「水野先生のご専門であるパーリ語の『文法』は非常に正確なもので、それに『読本』『辞典』の三部作をもって、これで日本のパーリ語研究が世界と肩を並べることが出来るようになったとってよい。またパーリ語からみた唯識論の研究にもパイオニア的役割を果たしてきました」とわが国のパーリ語研究に果たした多大なる業績を讃えた。

これに対し、水野副学長は「文化・思想研究の業績により受賞したがこんなにうれしいことはない。日本ではパーリ語を主に研究する学者が少なかったので、多少なりともこの分野でお手伝いできたかと思うが、シン大使、中村先生、平川先生にお誉めいただき恐縮している。インド研究の中でもパーリ語の研究は、ほんの一分野にすぎないので特別顕彰のような広い分野での賞に該当する人が他にもあるが、私を選んだことは長老の意味が含まれていると思い、よろこんでいただきたい。中村先生を中心に他に類をみないユニークな研究所である東方研究会の活動を通して、今後、世界人類への豊かな価値を見い出してくれることを念願しています」と受賞のよろこびを語った。

この顕彰式には朝野の学問、宗教、外交、教育の関係者の方々が参列し、講堂に満ちあふれた。式後に別室でパーティが行われた。」